

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科	科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	解剖学	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生	学期及び曜時限	前期	教室名	702教室
担 当 教 員	左 明				
実務経験と その関連資格	医科大学卒業後(医学学士)、医科高等専門学校で教員として9年間勤務、統計学や栄養学などの科目を担当 2000年、神戸大学医学研究科で医学博士号を取得 2003年から受託研究員として、大阪大学歯学研究科に3年間在籍、コメディカルの解剖教育に役立つ教育方法の確立 医療系専門学校の専任講師として、解剖学・解剖生理学を担当して23年目 日本解剖学会会員 「早わかり解剖学ハンドブック」など医学の専門書を6冊ほど監修や執筆(単著・共著)				
《授業科目における学習内容》 人体の構成:細胞・組織・器官・系統の成り立ちを学ぶ。 発生学の基本を学ぶ。 人体を構成する10個の系統のうち、循環器系・神経系の構造と機能の基本を学ぶ。					
《成績評価の方法と基準》 1、定期試験:100%。100点満点で、60点以上が合格。 2、「1」に平常点を加味する。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 言語聴覚士のための解剖・生理学 医歯薬出版株式会社					
《授業外における学習方法》 教科書をよく読み、積極的な予習・復習に努めること。固有名詞については声を出して、耳で覚えること。 わからないところをそのままにしないで、友達や、先生に質問して解決すること。 積極的に模型を活用し、脳と心臓の構造をイメージすること。					
《履修に当たっての留意点》 授業までに関連内容の事前予習をしたことを前提に、授業を展開していくので、必ず予習を行ってください。 授業中に課題を用意することがある。積極的に参加してほしい。 解剖学は医学の基礎科目で、重要である。医療人として、最小限必要な知識を身に付けよう。					
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	授業を通じての到達目標	人体の成り立ち、細胞・組織・器官・系統を理解し、上皮組織・結合組織・神経組織・筋組織の種類と特徴を略説できる。		教科書P3、P10-15	教科書を読むこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること。
	各コマにおける授業予定	人体の成り立ち 組織:上皮組織・結合組織・神経組織・筋組織の種類と特徴			
第2回	授業を通じての到達目標	ヒトの染色体・性決定・受精・3層性胚盤の形成とその分化、神経管・鰓弓などを説明できる。		プリント	教科書を読むこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること。
	各コマにおける授業予定	発生学			
第3回	授業を通じての到達目標	中枢神経系(脳・脊髄)の構造と働きを略説できる。		教科書P162-164	教科書を読むこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること。
	各コマにおける授業予定	中枢神経系(一)			
第4回	授業を通じての到達目標	中枢神経系(脳・脊髄)の構造と働きを略説できる。		教科書P162-164	教科書を読むこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること。
	各コマにおける授業予定	中枢神経系(二)			
第5回	授業を通じての到達目標	髄膜と脳室系を略説できる。		教科書 模型	教科書を読むこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること。
	各コマにおける授業予定	髄膜と脳室系 中枢神経:模型で実習			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第 6 回	授業を通じての到達目標	脳神経と脊髄神経を概説できる。	教科書P58-62	教科書を読むこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること。
	各コマにおける授業予定	末梢神経:脳神経・脊髄神経		
第 7 回	授業を通じての到達目標	体循環と肺循環の違いを説明できる。 心臓の基本構造、心臓の栄養血管を説明できる。	教科書P67-74	教科書を読むこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること。
	各コマにおける授業予定	体循環と肺循環・心臓の基本構造・冠状動脈と心臓の静脈		
第 8 回	授業を通じての到達目標	全身に分布する動脈と静脈を略説できる。 脳の血管(大脳動脈輪・静脈洞)を説明できる。 リンパ管系の構成と機能を簡単に説明できる。	教科書P88-93、P95	教科書を読むこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること。
	各コマにおける授業予定	全身の血管、リンパ管系		